Business ビジネス now scene#65

エプソン販売㈱（東京都新宿区）

「SurePress」10周年超え100台突破！

エプソン販売が扱うデジタルラベル印刷機「SurePressシリーズ」は、2010年に市場へ投入。一昨年に10周年を迎えた同機は、今年で誕生から12年を数える。全国のラベル印刷会社からも多くの引き合いを得て、国内の累計販売数は100台を超えた。これまでの歩みを踏まえ、同シリーズの特徴や活用事例、今後の方向性などについて、セイコーエプソン プリンティングソリューションズ事業本部の奥苑一臣部長とラベルプレス事業推進部の藤川雅史部長、エプソン販売 産業機器営業部の松岡大樹部長に話を聞いた。（柏木）

水性・UVモデルとともに進化続ける

――はじめに、皆さんの業務内容について教えてください

奥苑　ラベルプレス事業戦略の推進のほか、大型産業用プリンタの営業部門を統括しています。これまで、SurePressシリーズの導入実績100台を誇る国内と、売上の8割を占めるグローバル市場も含めさらなる事業成長を推進しています。

ハードウエア、ソフトウエア、インク開発、プリントヘッドという4つのコア技術が掌にのっているエプソンの強みと、ワールドワイドに販売チャネルを展開するリソースを最大限生かし、同シリーズをはじめ、産業用プリンタを国内外で提案し、新規市場の開拓も行っています。

奥苑　一臣 部長

藤川　卓上ラベルプリンタや捺染向けの大型印刷機などの担当を経て、SurePressシリーズの設計や企画、アフターサービスを含めた部門責任者を担っています。

当社プリンタ事業の集大成ともいえるSurePressが、世界全体の印刷市場を支援する存在になることを目指しています。

藤川　雅史 部長

松岡　SurePressの国内営業担当です。「誰でも」「いつでも」「簡単に」をコンセプトに掲げ、近年ラベル印刷会社でも取り沙汰されている技術承継問題や省人化の課題解決へも、SurePressを通じて訴求していきます。

――次にこれまでの10年に関して技術革新やターニングポイントを伺います

藤川　2010年10月に、当社初となるデジタルラベル印刷機「SurePress L-4033A」の販売を開始しました。当時から食品分野のラベルを中心に、多品種小ロットの仕事を賄うため、お求めやすいデジタル印刷機の入門機として国内外のコンバーターから選ばれてきたと自負しています。

その後、12年には白インクを搭載した「SurePress L-4033AW」を発売しました。粒子が沈降しやすく難易度の高い顔料白インクの吐出技術を開発できたことは、SurePressのターニングポイントの1つです。

奥苑　16年に販売を開始したUVモデル「SurePress L-6034VW」もSurePressの用途を広げる転換期の1つでしょう。

UVモデルは中国・欧米市場を中心に展開しており、当社独自のバーニッシュインクで化粧品ラベルの厚盛り感を演出するほか、梱包用デザインテープやステッカーなどの通信販売事業で用途を拡大中です。そのほか、耐候性を求められる工業製品用ラベルで高い評価を受け、導入企業の多くがUVモデルを複数台所有しています。

松岡　国内においても、オンラインによる受注サービスを展開している印刷会社が増えたり、一般消費者による個人間取引で梱包用テープのデザインにこだわったりするなど、海外と同様のシーンでSurePressが活躍できます。ぜひ当社ショールームや内覧会で実感していただけたらうれしいです。

松岡　大樹 部長

SurePress シリーズで多品種商品のラベルを提案している

――国内100台以上の導入を達成しています。直近の活用事例については

松岡　石川県金沢市に拠点を構える高桑美術印刷さんを紹介します。同社は「SurePress L-4033AW」を活用して、八幡屋礒五郎の商品「七味唐辛子」の多品種小ロットラベルを製造。中身を生姜やゆず、コリンアンダーといった多彩なスパイスで調合でき、最小60本からの受注生産に対応しています。

同サービスは、蕎麦屋のほかホテルや料亭、和菓子屋などで採用されているもの。それぞれラベルにオリジナルデザインをあしらえることに加えて、中身に応じた原材料表記を変更する仕様になっています。

藤川　近年は、食品の多品種化が顕著です。さまざまな味の中でも、売れ行きによってロット数を変更することも、版がいらないデジタル印刷機ならではの特長でしょう。

凹凸のある基材のほか光沢加工など多彩な印刷を実現

水性タイプの第三世代 さらなる価値提供へ

――昨年のウェビナーでSurePressシリーズの高速UVモデルと第三世代水性モデルの紹介がありましたね

藤川　UVモデルのさらなるニーズに応えるべく、これまで毎分15㍍だった印刷スピードを向上。20年には、最大スピード毎分50㍍を誇る「SurePress L-6534VW」を海外市場で発売しています。今後は、国内でも展開を予定していますのでご期待ください。

UV機に加えて、国内外のラベル印刷会社から多くの引き合いを得る「SurePress L-4033A/AW」の後継機で水性モデルの「SurePress L-4533A/AW」に関しても、第三世代となる新型機の開発を続けています。現行モデルから改善を図る第三世代では、インクの改良とともに乾燥ユニットの性能の向上により、印刷のスピードアップを実現しました。

高桑美術印刷が所有する水性モデルで白インク搭載の「SurePress L-4033AW」

奥苑　水性モデルのスピードアップに関しては、10年間の課題です。ラベル印刷会社の皆さまから多くの要望をいただいていますので、間欠式のコンベンショナル機に少しでも追いつけるよう、今後も開発していきます。

またSurePressの進化は、印刷工程だけにとどまりません。営業・製版・後加工といった工程とも連携を図り、多品種小ロットで高付加価値を伴う印刷物が製造できる仕組みを提案できるようソリューションを強化しています。

藤川　水性モデルの第三世代では、昨年発売したハンディータイプの分光測色機「SD-10」と同様の技術を用いたインライン測色機をオプションで用意し、自動的に誰でも色合わせを行えるようになります。

加えてUV機の新モデルには、大径ロールの供給や検査装置、抜き・箔加工・スリッターユニットをインラインで連結するオプションを用意しました。詳細については、昨年当社が開催したウェビナーで解説しています。お客さまの情報を登録すれば録画を視聴できますのでぜひご覧ください。これらのようにSurePressでは、さまざまな工程を一貫したサポートに努めます。

仕事を止めない存在に 生産管理の支援を構築

松岡　生産管理の面においても、SurePressではサポート体制を整えています。デジタルならではのネットワークを生かすことで、ユーザーが使用するインク量や基材面積などを当社が把握。SurePressを活用する上での最適化を提案しています。

コロナ禍では海外のユーザーに対して、当社の国内部隊から印刷機のエラーをお知らせでき、ダウンタイムを軽減したこともありました。

デジタルへの意識実感 課題解決・環境配慮も

――ほかに、SurePressが解決することは

奥苑　冒頭にも触れたラベル業界の技術承継問題です。近年では、国内外でオペレーターの高齢化や人材不足に伴い、デジタル印刷機を導入するケースも多く、労働環境を改善したいという経営者のマインドを強く感じます。技術の習得に時間を要するコンベンショナル機に比べて、デジタル印刷機は、若手や女性オペレーターの存在も聞かれるようになってきました。デジタル印刷機であれば属人化することなく、担当者が不在であっても代わりを立てれば、仕事を止める必要がありません。

ラベル業界で世代交代が進む中で、経営者のSurePressに対する期待値も変化しているように感じています。

藤川　これまでは、SurePressの特長をご理解いただきながらも、卓越した職人技を持つオペレーターが備わっていたため、技術の習得に長年かかるコンベンショナル機が主軸でした。

近年では、コンベンショナル機と同等の品質を担保することがオペレーターにも浸透しているようで、導入企業のオペレーターがこぞってSurePressを使いたがっているという話も聞いています。

八幡屋礒五郎の七味ラベルをカスタマイズ可能

――最後に総括をお願いします

松岡　お客さまの困りごとを解決に導けるよう精進いたします。SurePress立ち上げ当初から継続するこのミッションを忘れず、ラベル業界にお力添えしていきたいです。

また、印刷機を販売するまでが私たちの仕事ではありません。導入後のアフターサービスやコンサルティングも欠かさず、SurePressの優位性を最大限引き出せるよう取り組んでまいります。

藤川　おかげさまで販売から10年以上で、国内100台以上の実績になりました。このネットワークを生かすことで、ユーザー同士の協力体制を築いてまいります。

加えて、昨今ニーズが高まる省資源・省エネルギー、環境にやさしい製品の開発を続け、サステナビリティーな社会実現に寄与していくことが使命です。

奥苑　コロナ禍や不況と言われる時代でも、生活を支えるラベルの需要が根強いことを実感します。いち印刷機メーカーとして、新たなアプリケーションを開発・提案していくことが、当社の課題です。エプソンならではの強みを生かし、第三世代の登場とともに、皆さまに愛されるソリューションとサービスの提供を目指しますので、ご期待いただければと思います。

ウェビナー

新技術を一挙に 測色など自動化

エプソン販売は昨年11月30日、SurePressシリーズの発売10周年を記念したウェビナーを開催。「SurePressこれまでの10年、これからの10年」と題したウェビナーでは、同シリーズを所有するユーザーのほか、導入を検討している印刷会社へ向けて、水性モデルの第三世代を紹介した。

新モデルの特徴を説明したのはセイコーエプソンの藤川部長。水性モデルの従来機「L-4533A/AW」からの主な改善ポイントとして、①自動測色機能②清掃自動化③印刷速度アップ、の3点を挙げた。

このうち①については、機体に分光センサー付きユニットを連結させ、インラインで測色が行えるもの。同機能は営業所や製版部門などとデータを共有し、あらかじめ読み取った色見本と整合性がとれるよう、SurePressで色調整できるという。加えて色の異なる基材では、同じデータであっても色味に違いが生じるため、色差の自動補正機能も搭載している。また、複数台の機体で色のバラつき補正も行う。

②の機能では、ヘッドに溜まったインクが固まらないうちに、新機構のワイパーパッドで吸い取れるという。従来、印刷機の下からもぐり込み人の手で行っていた煩わしい作業の負担軽減に寄与する。

③については、インクの乾燥レベルを改善し印刷速度が向上するもの。これまでインクの乾燥にムラが生じていたことを受け、ファン機構の改善で、基材全体へ均等に乾燥できる。

UVタイプの新モデルはすでに海外で発売している「SurePress L-6534VW」。従来機では毎分15㍍だった印刷スピードが大幅に向上しており、高生産モードでは最大で、毎分50㍍を誇る。

またオプションとして、検査装置や抜き・箔・スリット加工を施せるユニットなどの連結も可能だ。加えてインクが球体を保ちながら、基材へのにじみが少なく着弾できるノズル機構のほか、UVランプなどの特徴について説明した。

新モデル両機の国内正式発表は、今年中を見込んでいる。藤川部長は「水性モデルに関しては、印刷スピードをコンベンショナル機に追いつけるよう向上を図り、UV機はラミネートや軟包装にも対応できるようなインクの開発に努めていきたい」と方向性を示す。

今後の支援施策について案内したのはエプソン販売の松岡部長。SurePressの導入を検討している企業の紹介・成約によるインセンティブキャンペーンや、補助金申請サポート事業などを説明した。

なお今回のウェビナーは、アーカイブ配信を行っており、専用サイト（https://v2.nex-pro.com/mypage/libraries/31029）から登録後に視聴できる。

熟練職人の「感性」を
どこまで再現できるか。

職人技が必要とされる「調色」。
エプソンは「職人技術」のデジタル化に挑戦しました。
SurePressは、誰でも簡単に特色の色合わせができるワークフローを提供します。

金光 雅志氏のインタビュー、WEBで公開中 >>> 「シュアプレス」で検索

株式会社 丸紀印刷
金光 雅志氏

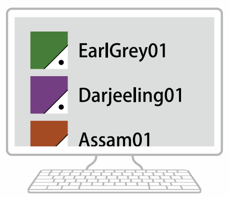
EPSON
EXCEED YOUR VISION

page2022に出展します
会期：2022年2月2日（水）～4日（金）

シュアプレス　検索
SurePressホームページ》
surepress.jp/lineup

製品に関するお問合せ・実機の見学予約※は
シュアプレス専用ダイヤル 03-5919-5258
受付時間 午前9:00～午後17:30 月～金曜日（祝日・弊社指定休日を除く）

測色計を使い、わずか3ステップ、約8分で特色の色合わせが完了。コスト削減、働き方改革に寄与します。＊予め基材ごとのプロファイル設定が必要です。



STEP 1 原稿データの特色の名前を指定

STEP 2 基準となる色を測色（現物/カラーチップ）

STEP 3 SurePressで本紙にチャートを印刷し、再計測

印刷本紙の基材種の違いによるブレを抑えた色味を再現します。

デジタルラベル印刷機
SurePress L-4533A／L-4533AW

エプソン販売株式会社　セイコーエプソン株式会社

※見学は日野デモルーム（東京都）で行います。＊この広告に記載の仕様、デザインは技術改善等により、予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。

無料印刷サンプル
請求フォームはこちら
surepress.jp/sample